

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190400012		
法人名	社会福祉法人 清水福祉会		
事業所名	グループホーム けいこう園		
所在地	多久市東多久町大字別府5222番2		
自己評価作成日	平成24年 4月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年5月11日	外部評価確定日	平成24年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>24時間介護体制の中で利用者様の生活習慣を最大限尊重し、楽しく家庭的な雰囲気の中でいつまでも自分らしく生活していただける場を提供する。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は東多久町の中心部に位置しており、近くにはJR東多久駅や郵便局、スーパー等も見受けられる。敷地内には同一法人の養護老人ホームが併設されており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。開設2年目を迎えた事業所では、「利用者がそれぞれに役割と個性を持って日常生活を送れるように支援します」を理念とし、利用者の意向と残存機能を活かしたその人らしい暮らしの継続支援に取り組んでいる。エプロンをし、にこやかに食事の準備をされたり、窓掃除をされる利用者の姿が見受けられる。真新しい事業所内は、採光や風通しが良く、衛生面や利用者の利便を図った環境づくりがなされている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である、「笑顔」「和」「思いやり」をもって社会へ貢献します。ホームの介護理念として、「利用者がそれぞれに役割と個性をもって日常生活を送れるように支援します」を掲げスタッフ一同共有し実践につなげている。	「利用者がそれぞれに役割と個性を持って日常生活を送れるように支援します」を理念としている。管理者は職員の採用時に理念を伝えるなどし、職員で共有し、支援に活かせるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年介護老人ホームと合同で行った夏祭りには地域の方にも声掛けし、一緒に楽しんでいただいた。又地域のお祭りには参加のお誘いをいただき参加させてもらった。毎日の買い物の際にも声をかけていただいたり気軽に挨拶や会話が来ている。	日常の買い物時や散歩の時等に近隣者や店員等と挨拶を交わしている。また、利用者と一緒に地域の祭りに参加したり、近隣住民を併設施設と合同の夏祭りに招く等、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して地域の中で認知症の理解や、認知症の方を抱えて困っている家族への相談等へのアプローチを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回を目標に運営推進会議を行い、園の活動状況などを報告したり、会議での意見をサービスの向上に活かすように努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、地域や家族の代表、行政職員等の参加を得て開催している。事業所の状況報告や情報交換を行い、出された意見は、サービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員である地域包括支援センターに参加していただく中で意見・協力をいただくようにしている。また、市の地域ケア会議にも参加させていただき事業所の紹介やケアサービス等の取り組みを伝え協力関係を築くよう努力している。	市や地域包括支援センターの担当者とは、開設時から情報交換や相談等を行い、協働関係を築いている。市主催の地域ケア会議にも参加し、情報交換等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同拘束しないケアの理解に努め、拘束しないケアを基本原則としている。玄関・居室の施錠も行っていない。拘束せざるを得ないケースについては、家族の同意を得た上でスタッフ一同ミーティングの際に話し合い対応している。	職員は身体拘束の弊害等を理解し、拘束のない支援に取り組んでいる。玄関も昼間は施錠しておらず自由に出入りができ、職員の見配りや気配りで安全な暮らしを支援している。玄関には音センサーが設置されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同高齢者虐待防止法の理解に努め、毎日の生活の中で注意を払い対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年はなかなか思うように研修に参加できなかったため今年度は成年後見人制度など外部研修への参加を積極的に行うと共にスタッフ一同で共有するために研修者は報告する義務をもち職員間の周知を図りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約時に関して不安や疑問がないよう十分な説明をおこない、理解・納得を得ている。又改定などを行う場合は書面や説明会を開き説明を行い、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているもののなかなか利用されるケースはないため、日頃から利用者や家族様とのコミュニケーションを密にし、様々な意見・要望を表していただくよう伝え、意見・要望はその都度検討し運営に反映するように努力している。	家族の面会時や電話の折には必ず声をかけ、意見や要望等を聞くようにしている。出された要望等は、職員間で検討し支援に反映させている。また、玄関に意見箱を設置したり、重要事項説明書に苦情受付窓口も明示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週2回のミーティングをはじめ、その都度スタッフの意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	法人の施設長や管理者は、月2回の職員会議や日常の業務の中で職員の意見や提案等を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが応分の職責を自覚し、目標をもって仕事に取り組むように、給与・賃金等の勤務条件、施設設備等の職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験・実績等を踏まえ、本人が主体性と課題を持って研修に参加するよう積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の同事業所との交流を図るほか他法人の同業者との情報交換等に積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、本人が安心して生活できるような安心確保への関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族が困っていること、不安なこと、要望などに耳を傾けながら、入所者が安心して生活できるような安心確保への関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人に他のサービスが必要と思われる時は、家族と本人を含め十分話し合った上で支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、入居者のできることを見出し、生活レク参加などの共同作業において共に暮らす者同士としての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族と密にコミュニケーションを図りながら、家族とスタッフが一緒に本人を支えていく関係づくりを行うと共に、家族と本人の絆を大切に支援を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた馴染みの方や知人等へ再来の言葉かけなどを行い、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。また場所についてもいつでも記憶に留まるように会話の中に取り込んでいくよう努めている。	利用者の馴染みの場所へ出かけたり、自宅付近の様子等を話題にして度々会話をするなどしている。家族や友人等の訪問時には一緒に歓迎し、関係の継続を支援している。また、家族の協力を得ながら馴染みの美容院等の利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者のほとんどがホールで過ごされる時間が多く、生活レクやレクリエーションなどの共同の場を通して、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退所されてからも、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族からの相談等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント作成時より一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また日々の関わりの中で何気ない言葉や表情から、その方の思い、希望などの把握に努めるようにしている。困難な場合は家族と相談のうえ本人本位で検討している。	個々に、ゆっくりと関わる時に発せられる言葉や表情等から、思いや意向等を把握している。困難な場合には、家族等から情報を得、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過など家族やこれまでの担当マネージャーなどにより情報の収集を行い、把握につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの現状をもとに、入居後一人ひとりの一日の過ごし方は様々であるが、本人が過ごしやすいように努めている。また、心身の状態で本人の有する力などの把握に努め、本人の希望を取り入れるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族や本人の希望を優先的に取り入れ、現状に即した介護計画を作成するようにしている。また普段面会時等家族と話す機会を設けたり、スタッフ間でのミーティング等において話し合い介護計画に反映させるようにしている。	利用者や家族の希望・意向等を反映しながら関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月毎に評価を行い、現状に沿った介護計画で支援している。なお、状態に変化が生じた時には臨機応変に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきなど個別ケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況変化に合わせ、意向を聞きながら取り組み必要なサービスがあれば柔軟な対応をするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう心がけて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	園の提携医療機関より週1回の定期訪問を受けている。また、かかりつけ医と提携医ともに連携を取り相談できる体制の中、家族の協力を得て適切な医療を受けられよう支援している。	以前からのかかりつけ医や本人・家族の希望される医療機関の受診がなされている。主治医の変更も家族の希望で行われている。通院は基本的に家族の付き添いとしているが、状況に合わせて職員が同行し、適切な診療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを同一敷地内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し指示をもらい、個々の利用者が適切な受診や看護をうけられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族とともにDrと話をさせてもらったりして安心して治療ができるよう、また、できるだけ早期の退院ができるように、医療関係者との関係を築くと共に情報交換ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、家族と共に話し合う機会を持つようになっている。また重度化した場合の対応に係る指針を掲げ、最終的には家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	「重度化した場合における対応に係る指針」を定め、契約時に説明し、同意書を作成している。重度化に至った場合には改めて説明を行い、家族の意思に添うように医療機関と連携しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム提携医療機関や協力病院は24時間の連絡に対応する体制はとれている。応急処置などの訓練については実践していないので早急に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含む年2回の避難訓練の実施においては消防署や同法人内の養護老人ホームと連携を取り、避難の方法について身につけるよう訓練を行っているが、地域との協力体制については再確認し、協力体制を築くようにしなければならないと思っている。	消防署の協力を得て併設施設と合同で、年に2回、昼夜を想定した火災時の避難訓練を実施している。地域からは区長他1名の参加が得られているが、近隣住民への参加協力を得られるまでには至っていない。	日頃から近隣住民への災害時対策に関する理解や協力を働きかけ、参加・協力を得ての避難訓練に取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮し対応するように努力している。	職員は、入居者一人ひとりの気持ちやプライバシーを尊重した言葉かけや支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、できる限り本人の思いや希望を聞きながら、自己決定ができるように働き掛けるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはおおまかに決まっているが、「今日は何がしたい」等の声掛けを行い、本人に考える場を作る。また入居者のペースに合わせ、その日をどのように過ごしたいか希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行える身だしなみはおこなってもらい、その人らしい身だしなみやおしゃれができるような支援を行っている。また、理美容に関しては馴染みのお店を利用したり、ボランティアの利用にて対応できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には入居者の食べたい物を入れ込むなどしてスタッフで作るが、食事が楽しみになるよう一人ひとりの力を活かしながら、入居者とスタッフが協力して一緒に炊事全般を行っている。	利用者の意向と力量に合わせて調理や盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。利用者の誕生日等には、希望に合わせた献立を準備し祝っている。食事の時、職員はテーブルの周りで見守りを行っている。	今後は、職員も一緒にテーブルを囲み、食事を一層楽しめる雰囲気づくりに取り組まれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスなどは栄養士のチェックを受けている。食事の摂取量、水分量などについてはチェック、また入居者の心身の状態などにより食事の形態などにも気を配るようにしている。お茶などはいつでも飲むことができるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、言葉かけ、誘導、見守り、一部介助等を含め一人一人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については在宅での状況と習慣などに基づいて一人ひとりが自立に向けて対応できるようにしている。排泄パターンの把握のためチェック表を作成し利用している。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して前誘導を行い、全員をトイレでの排泄ができるよう支援している。利用者の半数以上は布製下着の着用で支援しており、おむつから改善された方も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の状況と食事、水分等の摂取状況を把握している。日頃から体操やレクリエーションを通し便秘予防にも心がけている。食事では野菜などを多く入れたメニューを提供するように努力している。また水分補給もこまめに行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は隔日体制で行っているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるよう支援を行っている。	基本的には隔日の入浴としているが、希望があれば毎日でも可能であり、利用者の希望や体調等に合わせて支援している。入浴を嫌がられる場合には、無理強いせず、言葉かけやタイミングを工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて休息したり、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援においては、Dr・薬剤師の指導の下、薬情などを本人、家族の了解を得て用法・用量を把握、服薬の管理、状態の観察に努めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好をできる限り把握するようにし、入居者の意向を聞きながら本人の楽しみや気分転換が図れるように努力し支援に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事などについては、入居者の行きたい場所などを尋ね、ドライブなどへ反映させている。また行事には家族の参加協力を得られるよう努力している。	利用者の体調等に合わせて散歩や近隣のスーパーへ買い物に出掛けたり、馴染みの場所等へのドライブをしている。身内の行事等にも家族の協力を得て、出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が行える方はお小遣い程度に持っておられ、外出などした際にご自分が買いたい物を購入されておられる。戸惑っておられるような方については援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はなかなか来ることは少ないため電話でのやりとりが多いが、本人が電話を希望されたり、かかってきた電話に出ていただく等の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段はホールの椅子に座って過ごされることが多く、四季の花を眺めたりスタッフや入居者同士での会話などしてそれぞれが居心地良く過ごせるよう心がけている。壁には入居者と一緒に作ったカレンダーや外出した時の写真を貼ったりしている。	玄関や居間兼食堂等にはガラス窓が多く、採光や風通しが良く、気持ちの良い環境である。対面式の台所からは調理の音や匂いが居間に届き、利用者の五感を刺激している。玄関や食卓には季節の花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やホール内のソファなどを利用して過ごされたり、利用者同士での居室で会話をされるなど思い思いの場所で過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は本人・家族へ安心した居室作りを伝え、使い慣れた家具や好みの飾り物等を置き、心地よく過ごせるように工夫をしている。	家族からの手紙を目に付くところに掲示したり、利用者の好みの飾り物や使い慣れた調度品等を持ってきてもらう等、家族の協力を得ながら安心できる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で一人でできることは、できるだけ本人に任せできない部分のみ援助するようしており、トイレの場所など共同で使用する場所がわかるように環境づくりに心掛けています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない